



特定非営利活動法人 なんとなくのにお 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail [info@nantonakuno.net](mailto:info@nantonakuno.net)

## 「居場所」から 「持続可能な社会」を覗く

地球温暖化をテーマにしたサミットが近いせいもあり、「持続可能な社会」という言葉があちこちで聞かれます。「1980年に国連自然保護連合および国連環境計画がとりまとめた世界保全戦略に初出し、1987年頃に広く認知された言葉(\*)」だそうです。20世紀末、急成長してきた社会を未来に延長することの限界や矛盾が見えはじめました。そして「持続可能な社会に転換すること」が大きな課題になってきたのです。

いっぽう、この5年の間に、誰がそうしようと決めたのかよくわからないまま、成果主義が勢いを強めています。その圧力は企業や学校を巻き込み、個人は孤立を深め、過酷な生き方を強いられています。そんな中、「持続可能な社会」は混乱を鎮める呪文として唱えられているだけのようには思えます。

じつはこの「持続可能」、私たち「なんにわ」の設立趣旨書にも出てくる言葉なのです。『望まれているのは、持続可能な世界を考える想像力、そして、その仕組みをどう作り上げていくのかという構想力』と。マイナスと思われがちな「不登校」、非生産的と考えられがちな「ひきこもり」、そんな子どもたち、若者たちに寄り添い、共同する場所が「居場所」です。強制的ない、地域に密着した場所でこそ、新しい社会への想像力・構想力が鍛えられるのではないかと私たちは考えました。この社会が生み出した現象には、どんなことでも理由があり、目的があります。「居場所」に集まる子どもたちを肯定し、その場に生まれる何か「持続可能な社会」を考える力を育てるのではない



でしょうか。「居場所」から、ほんの少し、未来を覗いてみたい。試されているのはむしろ私たちの想像力と柔軟性です。(手塚)

(\*) ネット上の百科事典“Wikipedia”による

## 第4回 定期総会報告

5月10日(土)午後2時から、日光市民活動支援センターで第4回通常総会を開きました。正会員12名、表決委任者13名の参加をいただき、2007年度事業報告および収支決算の承認、監査報告、2008年度事業計画案および予算案が承認されたことを報告いたします。今回は役員の変更はありません。現役員の任期は2009年6月までです。

「なんとなくのにお」が活動を始めてから、今年で5年目になりました。今年度から「学びサポートひろば」などの新しい事業を始めました。インターネット上のホームページからの情報発信も充実させていこうと考えています。内田良子さん講演会(下欄)などを中心に、地域への情報発信活動も強化していく所存です。今後とも私たちの活動への積極的な参加、協力をよろしくお願いいたします。

## 内田良子さん講演会決定

心理カウンセラー。「子ども相談室・モモの部屋」主宰。

NHKラジオ「子どもの心相談」アドバイザー。

「不登校って何？」(仮題)

10月25日(土) 午後2時より

演題・時間は変更の可能性があります。会場未定。

## 目次

第4回定期総会によせて	1
子育て勉強会(第2回)報告	2
活動日誌	3
イベント報告	3
こんな本はいかが?(4)	4

居場所のひとこま 総会するとき、お茶菓子に出した、手作りのロールケーキです。インターネットでたまたま見つけたレシピを参考につくってみましたところ、びっくりするほど生地がふわふわで、しっとりと出来上がりました。出席した皆さんにも喜んでいただき、嬉しいかぎりです。機会を作って、「お菓子づくり教室」でもいかがでしょうか。(Y)



## 子育て・親育ち勉強会 (第2回)を開催

2008年3月22日(土)、日光市教育委員会の発達相談員(臨床心理士)、帷子頭二郎先生を講師にお迎えして、2回目の子育て・親育ち勉強会を開催いたしました。昨年12月の1回目の勉強会を上回る26名の参加を得ることができ手応えを感じました。帷子先生には長年の相談経験に基づく具体的なお話をいただきました。

気になる行動を①勉強 ②友達関係 ③家庭の様子の子の3つの側面から具体的に話していただき、発達障がい理解に大変役立ったように思います。そして「どんな支援が受けられるか」や「家族にできること」など、親がすぐにでもできることを提案していただきました。

今後もこのような研修会を続けてほしいという声もあり、さっそく7月には再び山崎先生のお話を聞く勉強会を計画しています。(白井)

以下はアンケートのまとめです。

### 1. 勉強会を何で知りましたか？

- ①友人・知人・・・6名
- ②チラシ・・・7名
- ③新聞・・・0
- ④その他・・・2名

### 2. 印象に残った点や感想

ハードルの高さにあわせてあげる、基本的ルールを教え

ることが大切、家庭は休養の場所であるということは本当に大切だと思う▼「ちゃんとしなさい」や「何でできないの?」と思って対応してしまうことを反省する。こういう話を聞くことで新たな気持ちでがんばろう!!と思えるのと振り返りもできるのでよかった▼友人目線で見ることが大切というところ▼先生がすっぱりと発達障害の子を包み込んでいる様子を見て、いいなあと思った。愛を感じた▼家庭教育、注意の仕方など▼周りの目を気にせず、本人と向き合い、相談員や専門の先生に相談すべきと思ったり、そうすべきであることがわかった▼ちょっとした気遣いで子どもの行動が変化する。もう少し子どもの気持ち、目線で関わっていききたい。(イライラせずに)▼ニートと言われる人に発達障害の人がかなりいるだろうということにはびっくりした。使ってはいけない言葉の説明が勉強になった。遠くからや後ろから声をかけてはいけないことも知った▼子供のしかり方▼こうした勉強会に初めて参加したが勉強になった▼本人のハードルの高さを考えて育てていきたいと思った▼言葉かけについて▼子供には冷静に接することが大切だということ。実際には三度冷静に言ってもわからないと大声で言うてしまう▼具体的な怒り方について▼自分がイライラして子供に接していたことが見えてきたので、今日から少し直そうと思った▼効果的な注意の仕方を教えて頂いた。わかっているけどできていないことばかりで、もっと広い心でがんばろうと思った。「ほめて何か言うときは正面からトントンして」で頑張ります

### 3. 今後、どのような話を希望しますか？

知らないこと、分からないことばかりなので、何でも参加したい▼同じような第3弾▼不登校の子にどのように対応していけばよいか▼学校の先生とのかかわり方▼具体的な悩みに答えていただく形の勉強会を受けてみたい▼実際に、いろいろな人の抱えている問題や、自分のことについて話したり聞けたりするような質疑応答形式の勉強会があるといいなと思った▼家庭内での親子のかかわり、祖父母とのかかわり、コミュニケーションなど

**子育て・親育ち勉強会 第3弾**  
**「うちの子、ちょっと気になる?!」**  
**とおもったら**

**講師：山崎 育さん**  
日光市こども発達支援センターつばさ園 療育指導員  
言語聴覚士・特別支援教育士・日本LD学会所属

- お話しはできるが、何か気になる。
- 集団生活に慣れない。
- 家では元気なのに、外では極端におとなしい...など、気がかりなことはありませんか？

講師の山崎さんがわかりやすく話をします。

7/26 (土)

**日時**：2008年7月26日(土)  
午後1時30分～3時

**場所**：日光市勤労青少年ホーム 軽運動室  
(日光市今市文化会館隣り)

**対象**：年長～小学校低学年の親御さん

**定員**：24名(先着順)

**参加費**：無料 ★託児あります★

**主催**：NPO法人なんとなくのひろば

**共催**：日光市子育て支援課

**後援**：日光市教育委員会

**問い合わせ&申込先**：  
NPO法人なんとなくのひろば  
TEL&FAX：0288-21-2631

**山崎 育さん プロフィール**

- ・千葉県出身
- ・上智大学文学部社会福祉学科卒業
- ・社会福祉法人九十九会つくも幼児教室指導員として5年間勤務
- ・国立身体障害者リハビリテーションセンター学院 聴能言語専門職員養成課程入学、同校卒業
- ・指導員兼言語専門職として復職
- ・千葉県立こども病院形成外科勤務
- ・昭和大学付属病院形成外科勤務
- ・国際医療福祉大学言語聴覚センター勤務
- ・2000年 つばさ園療育指導員嘱託
- ・2001年 同職 正規職員に
- ★子どもの言語・コミュニケーションに関する指導・相談・助言を専門とする。

## 発達障がい支援者連絡会

発達障がいを持つ子の親、学校関係者、市民団体等が自由に意見交換を行い、今できることに取り組んでいく集まりです。毎月第4月曜日、午後7時から、日光市民活動支援センターで開いています。どなたでも参加自由の会です。気軽にご参加ください。(担当：西尾・白井)  
連絡先：日光市民活動支援センター  
(電話：0288-22-2271)

## ☆ 活動日誌

- 1月31日(木) 市教委報告書提出
- 1月26日(月) 発達障がい支援者連絡会(第23回)
- 2月10日(日) NPO見本市 とちぎ健康の森(手塚、吉成、加藤)
- 2月17日(日) 若者自立支援フォーラム(日光総合会館)に参加(吉成、手塚、西尾)
- 2月21日(木) 沼尾忠宏さん、「東京シューレ葛飾中学校」でライブ(加藤)
- 2月24日(日) ベリー会(吉成啓子、吉成勇一)
- 2月25日(月) 発達障がい支援者連絡会(第24回)
- 3月8日(土) 「ニュートリノのなぞ」(サイエンス・カフェ 14 講師:手塚郁夫)
- 3月22日(土) 子育て・親育ち勉強会(第2回)(発達障がい支援者連絡会)
- 3月23日(日) ベリー会(吉成啓子、吉成勇一)
- 4月1日(火) 子どもの居場所・なんとなくのになわ 新年度開始
- 4月13日(日) しんこう苑 花見会
- 4月26日(土) 「春のすみれたち」(サイエンス・カフェ 15 講師:神山隆之さん)
- 4月27日(日) ベリー会(吉成啓子、吉成勇一)
- 4月28日(月) 発達障がい支援者連絡会
- 5月3日(土) 泉福寺「八十八ヶ所まつり」に参加(バザー)
- 5月10日(土) 第21回理事会、第4回定期総会
- 5月24日(土) 「川むしたんけん隊」(サイエンス・カフェ 16 今市の水を守る市民の会) 雨のため中止
- 5月28日(水) しゃみまんがライブ(武蔵大学 社会学特講Gにて、沼尾忠宏)

## イベント報告

### ■ 泉福寺「八十八ヶ所まつり」バザー

午前中は雨が残りましたが、昼からは晴天。猪倉山泉福寺のお祭りは、護摩焚きから始まり、野外ステージでのバンド演奏や出店で盛り上がりました。なんにお特製のケーキやお赤飯は完売。バザー品の売り上げも好調でした。

### ■ サイエンス・カフェ14「ニュートリノのなぞ」(3/8)

午後7時半から、15名が参加。「太陽ニュートリノ問題」、「大気ニュートリノの異常」、「宇宙の暗黒物質候補探索」などニュートリノ研究の歴史についての概説。講師(手塚理事)が共同研究者として関わる「日欧共同ニュートリノ振動探索実験」などの話題も含め、ニュートリノという素粒子は、微小な世界から宇宙全体に至る基本法則を知るための鍵を握っているという話に参加者の興味が集中しました。後半は実験手法、実験装置などについて多くの質問がありました。

### ■ サイエンス・カフェ15「春のすみれたち」(4/26)

講師の神山隆之さんが、あらかじめ採集してきた近辺のすみれを持参。生きた標本で観察のポイントを学びました。その後、支援センター周辺、今市小学校周辺の開花時期をむかえたすみれを観察し、4種ほどのすみれを同定することができました。後半はセンターに戻り、チリ(アンデス山脈)などで、神山さんが撮影した美しいスライドを鑑賞しながら、すみれ科などの植物の環境への適応について理解を深めることができました。



### ■ サイエンス・カフェ16「川むしたんけん隊」(5/31)

「今市の水を守る市民の会」の協力で準備を進めてきました。残念ながら、当日荒天のため中止となりました。午前10時頃、雨の中で4名の水の会メンバーが川虫調査。川魚も元気に泳いでいました。(写真) 9月頃、また川虫観察会を企画しようということになりました。

## 学びサポートひろば

毎週金曜日 午後4時から8時まで  
会場: 日光市民活動支援センター



### 沼尾忠宏しゃみまんがライブ @東京シューレ葛飾中学校

2月21日 木曜日、東京シューレ葛飾中学校で行われた沼尾君による三味線漫画ライブの様子が「とちぎ教育ネット」の通信「クロスロード」に紹介されています。以下のアドレスをご覧ください。

<http://ten10.sakura.ne.jp/crossroad/c2008-4.pdf>

〒 321-1261 日光市今市 378

電話/Fax 0288-21-2631

E-mail: info@nantonakuno.net

ホームページもご覧ください

<http://www.nantonakuno.net/>



## 私たちの活動目的：

日光市およびその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して学習や自立の支援活動を行い、地域の人々が支える新たな学びの場を作り出すことを目的とします。

## 私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、子どもたちに自然環境保全の大切さを啓発する活動



## こんな本はいかが？ その4

「私のおすすめ本」を紹介するコーナーです。加藤さんは武蔵大学社会学部で「社会学特講G」という授業を担当しています。不登校を社会学の視点からとらえる講義だそうです。授業で紹介した書籍のレビューを転載しました。

### 不登校の歴史とその社会的背景（1）

稲村博 1983『思春期挫折症候群-現代の国民病-』

いまや知る人ぞ知る斎藤環の指導教官にあたる精神科医による著書。内容は登校拒否、家庭内暴力、ステューデント・アパシー、出社拒否などの子ども・若者の諸現象を規範感覚の崩壊という視点から捉えたもの。登校拒否を医学の治療対象であるとする見解は後に人権上の問題を露呈させることになる。

渡辺位（編）1983『登校拒否・学校に行かないで生きる』

「登校拒否は病気や異常によるものではなく、まして子ども個人の資質によるものではなく、いわば学校教育を中心にした社会病理に根ざすもの」と初めて説いた精神科医が渡辺位。子ども個人の資質に原因を求めた稲村と対照的。

河合洋 1986『学校に背を向ける子どもたち-何が登校拒否を生み出すのか-』 「登校拒否になりやすい性格特性、あるいは特異的な家族病理的環境などを抽出することはほとんど不可能である」とした。この考え方自体は河合のオリジナルではないが、80年代にインパクトのあった本であると言える。

横湯園子 1992『アーベル指輪のおまじない-登校拒否児とともに生きて-』 カウンセラーとして子どもたちに関わってきた体験を詩的な文章でつづりながら、登校拒否がどのような社会的文脈で生じているのかについて考察している。効率中心主義のサバイバル状況にある社会の中で悲鳴を挙げている子どもたち、という図式。論理的な一貫性に欠ける文章ではあるが、感性の鋭さもまた時代を見抜く能力である。「おまじない」という言葉が好き。

西原理恵子 1998『はれた日は学校をやすんで』

西原理恵子の体験的な漫画。学校という環境に違和感を抱く少女の心境を刻々とつづっている。子どもが学校制度のどこに疑問を感じるのかを知る手がかりとしておススメ。著者の真摯な思いが伝わってくる本である。

（加藤敦也）

### 現在の会員数

正会員：35、賛助会員：16

団体会員：3 入会金はありません。

年会費（一口）は以下のとおりです

正会員 3,000円

賛助会員 個人 5,000円、団体 10,000円

「なんとなく」の活動の約30%は会費でまかなわれています。会員の継続をよろしくお願いします。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができます。皆様の積極的な参加をお願いします。

## なんとなくのへや

5月の発行予定が、総会準備や後始末に追われ、一ヶ月遅れとなりました。発行の遅れをお詫びいたします●6月7、8日に喜連川で心理カウンセラーの内田良子さん（心理カウンセラー）の相談会がありました。栃木不登校を考える会の主催。不登校などで悩む親などが、意見を交換する集まりです●深刻な問題を扱いながらも、ゆったりした雰囲気の中で会が進んでいきました。不登校の子と長年関わった方々の率直な助言と、内田さんの経験豊かな会の進行で、参加者みんなの気持ちが、明るく、軽くなっていくのを感じました●内田さんの話を聞きたい！という声を受け、講演会をお願いしたところ、快くお引き受けいただきました。10月25日（土）に予定しています。（T）